

2017年度卒塾生 自分のもさし

2017年度卒塾生、今月は自分に正直に生きる真の強さを持っていた子のエピソードです。

小5で入塾してきた彼女は落ち着きがあつて口数が少なく、大きく声を出してはしゃぐこともありません。いつもにこにこしていて、でも授業には真剣に参加し、宿題等やるべきことはきちんとやってくる、そんな真面目な女の子でした。ただ、時折発するきっぱりとした意思表示や、深く物事を考えているような眼差しから、「この子は自分の考えというものをしっかり持っているんじゃないだろうか・・・。」私の中でもうっすらとそんな思いはありました。

それがはっきりしてきたのは中学に入ってから。ある日の授業前、同じ中学に通う友達が、学校での出来事を彼女に話していました。その友達は、他の子からされていやだったことを告げていたようで、はた目にも「それはその子がひどいよね。」と同調してもらいたがっているのだわかりました。でも、彼女の返事は「それはあなたが悪い。」でした。友達は猛反発。それでも彼女は、どこがいけなかったのか、どうするべきだったのか、という自分の考えを、曲げることなく伝えていました。友達はその場は怒って離れましたが、彼女は平然としていました。後日、二人が今まで同様仲良く接していたのは言うまでもありません。真に相手のことを思いやった言葉は必ず相手に伝わるものなのです。彼女はいつもまっすぐに伝えていました。だからこそ、そんな彼女を塾のみんなは心から信頼していました。

世の中には自分なりのルールを持ち、何よりもそれに従って生きている人がいます。判断基準の“自分のもさし”を持っていると言ってもいいでしょう。人にどう思われようが関係ない、自分の信じる言動、生き方をする、そんな人々です。わずか中学生でしたが、もう彼女はそんな人でした。学校でも考え方の合わない人間に合わせるくらいなら一人であることを選択しました。進学先を決めたのも自分。40以上の内申と学年順位一桁の成績ながら、近くて通いやすい高蔵寺高校へ。風邪をひきやすく、頭痛や腹痛によく襲われ、生まれつき激しい運動はできない彼女。授業中、痛みに耐えている彼女を心配する私への返事はいつも「大丈夫です。」。高校に入学早々、薬によるアナフィラキシーショックを2度起こして死にかけた時、お母さんに言った言葉は「もう、私って強いところないじゃん。強いのはメンタルだけじゃん。」。親子で笑い合ったそうです。そんな境遇さえも笑いに変える強さを持っていました。

きっとこれからも彼女は、迷ったときは自分の中の羅針盤を見て進んで行くことでしょう。心の声を聞きながらどこに向かうのか、いつまでも見守らせてもらえると幸せに思います。